Malawi Voice vol.2

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊　平成２７年度３次隊
言語聴覚士　飯田知美

ごあいさつ

日本では新しい年度の始まりですね。入園・入学・進級おめでとうございます！！

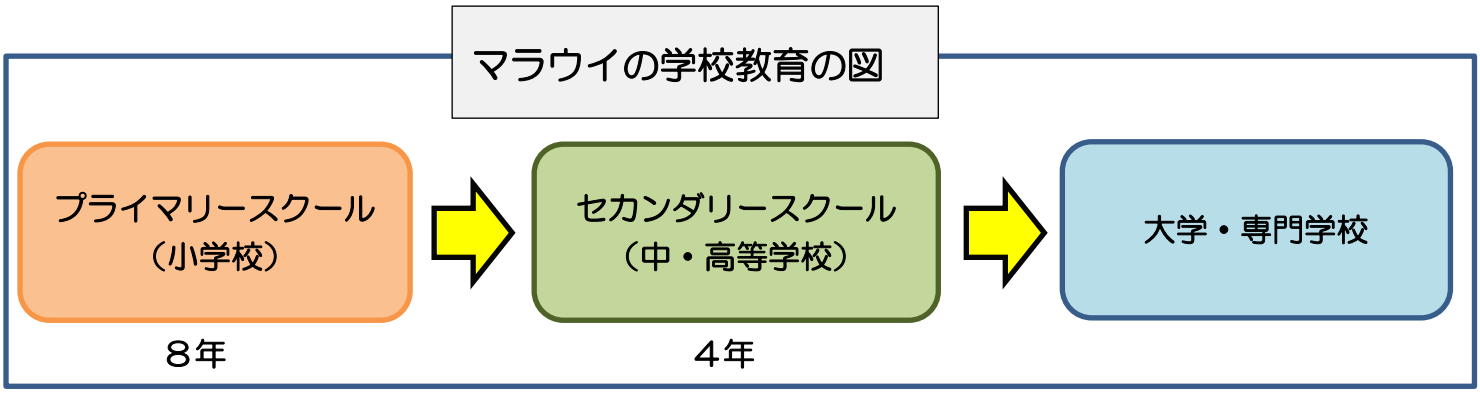
４月といえば、桜の花や緑豊かな日本のこの時期の美しい風景がすでに懐かしくもあります。日本では季節の変化を、気温の変化、木や花の色鮮やかさや匂い、旬の食べ物、虫の声など五感で感じることができます。当たり前のことであまり関心を持っていなかった全ての“日常”が、実は日本独特のもので、「四季」というものは、日本が世界に誇れる財産の１つだと、異国に来て初めて実感しています。こちらの気候や風土については、講義や先輩の体験談では聞いていますが、実際に肌で感じたマラウイの季節をお伝えしたいので、１年過ごしてみて書きたいと思っています。

さて、マラウイに来て約３ヵ月、任地に来て約１ヵ月半が経ちました。今はターム（学期）の間の長期休暇中（春休み？）です。少しずつマラウイでの生活にも慣れてきて、学校の仕組み（クラス、時間割、科目など）も分かり始めてきました。アフリカに来て様々な文化の違いや価値観の違いに触れるうちに、「この違いや違和感はどこから来るのだろう？」と考えることがよくあります。そして、特別支援学校で生徒たちと話したり、村や市場でマラウイの人々と話す中で、“教育”が、この違いを生む大きな要因のひとつだと感じました。私の活動先が学校ということもあり、教育について今後触れる機会が多いので、今回はマラウイの教育システムについて、今分かる範囲で紹介したいと思います。

今年度もよろしくお願い致します。

2016年４月
飯田知美

マラウイの教育システム



１．プライマリースクール（小学校）

日本の小学校にあたるのがこのプライマリースクールです。日本は６年制ですが、マラウイでは８年制になっています。1994 年、制度改正で**小学校が無償化**ました。この影響で、貧しくて教育が受けられなかった子もみんな学校にいけるようになりました。

そんな、マラウイのプライマリースクールにはいくつかの問題点があります。

①あふれる生徒たち…

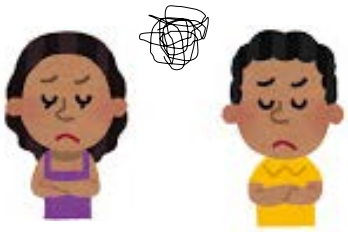
小学校を無料にしたのはいいですが、学校数（教室数）や教員数は増やしていないので、１クラスの生徒数が 100 人を超える学校が激増。その結果、机や教科書が足りないだけでなく、そもそも教室に子どもが入りきらず、青空教室（外で授業）も珍しくありません。

②ドロップアウト

マラウイでは学校を中途退学するケースが非常に多いです。理由は様々ですが、例としては「勉強についていけない」「教育よりも家事優先（洗濯や兄弟の世話は子どもの仕事）」「学校が遠すぎる」などです。８年生以外の留年制度はなく（飛び級はある）、勉強についていけなくても、進級はできます。それでも、最終学年の８年生までたどり着く生徒は 30%強（男子 35%、女子 29%）だそうです。

③学力問題

教員の質によるものなのか、生活環境の問題なのか、教科書などの教育内容の問題なのかわかりませんが、マラウイの学力はアフリカ地域で最下位という状態が長く続いています。実際、小学校の高学年の生徒が繰り上がりの足し算ができなかったり、九九をほとんど覚えていない状況をよく目にします。



２．セカンダリースクール（中学校・高等学校）

８年制のプライマリースクールを卒業するためには、国家試験に合格する必要があります（合格できなかった場合は８年生のまま留年）。この試験を無事に合格すると、セカンダリースクールへ進学する権利を得ることができます。ただし、合格した生徒の中で、セカンダリースクールへ進学するのは 36%程度。正確な理由は分かりませんが、現地の人に聞いてみると、「セカンダリースクールの数が少なくて、入れない」と受け皿の問題がメインと話していました。

３．大学

セカンダリースクールを卒業するためには、プライマリーと同様に国家試験に合格することが条件となっています。この難関を突破して大学に進学する子供はなんと全体のわずか１％と言われています。大学には日本と同様公立と私立があります。私立は授業料が高額ですが、学力的には入りやすいそうです。つまり、大学に進学できるマラウイ人は「成績優秀なエリート」または「お金持ち」ということになります。

マラウイでは、銀行員や政府系の仕事が給料が高くて、エリートとされています。このような仕事についている人は、大学を卒業している人たちです。

※特別支援学校（聴覚）

マラウイでは全国に 10 校程度の聴覚特別支援学校があります。ここで指導する教員は、特別支援教員の養成校を卒業している人が少数。後は通常の教員養成校を卒業しています。マラウイには、聴覚障害児への教育を学ぶ大学は１校しかありません。そのため、教員は政府からの通知が来た順に、この大学（モントフォート大学）へ２年間の研修に行きます。この間、代替えの教員は補充されないので、前回紹介したバンダウェ特別支援学校のように教員不足の学校が多いようです。

特別支援学校は、日本の幼稚園にあたるプレスクールと、小学校にあたるプライマリースクールがあります。セカンダリースクール以降は、特別支援クラスが設置されていません。そのため、進学する難聴児は、健聴児の中で特に支援なく生活をしなければならないようです。

学校によって学年システムは異なり、ここマウンテンビュー聴覚特別支援学校では、スタンダード１が５年（これがプレスクール）あり、スタンダード４も２年（このあたりでつまずく生徒が多いから？）あります。そして最高学年はスタンダード８（８年制のため）。通常の小学校は日本と同じ６歳からの入学が一般的ですが、特別支援学校は難聴が見つかって入学した子は基本スタンダード１からスタートするため、クラス内で年齢はバラバラです。大体の子が 13 年ほど在学するので、今年の最高学年の生徒は、“小学生”といえども 17～20 歳です。そして、マラウイの聴覚特別支援学校は全て全寮制となっています。

３月の活動の様子

前回のおたよりにも書きましたが、今学期は主に授業の見学をしながら、現地語である「チェワ語」とマラウイ手話を勉強しました。生徒と仲良くなり、話す機会が増えたため、今はマラウイ手話がどんどん上達しています。生徒と話す時は、日本語で話しながらマラウイ手話をするという生活をしているため、英語とチェワ語は停滞気味…。生徒と話す中で彼らの生活の様子がみえてきたので、今回は１日の流れ（生徒バージョン）を紹介したいと思います。

☆1 日の流れ（生徒）☆

5：00　起床
　　着替え、洗濯、ベット片付け
　　風呂
6：30　朝食、皿洗い、準備
7：30　登校、教室や庭の掃除
8：00　朝礼
9：00　午前の授業
10：00　ティータイム
10：50　午前の授業続き
12：00　昼食
14：00　午後の授業
15：00　下校
　　（月・水・金は職業訓練クラス）
　　（木はスポーツの日。男子はサッカー、女子はネットボールをする。）
17：00　夕食準備の手伝い
18：00　夕食、皿洗い、ホステルのそうじ
　　風呂、勉強、着替えなど
（19：00　ホステル施錠）
20：00～21：00 頃　就寝

生徒たちは全員ホステルと呼ばれる寮で生活をしています。夜暗くなったら眠るので、朝は早起き。

食事は全て学校に付属の調理場で作られ、各寮に運んで食べています。

朝礼の後、先生たちは職員ミーティングをして、世間話をたっぷりしてから教室にのんびり歩いてきます。時間割はあってないようなもの。誰も時間割を見ていません。そして授業の区切りはなく、気づけば違う教科に変わっていることも。

毎日全校生徒で朝礼があります。内容は
1．太鼓に合わせて動く
2．祈り（キリスト教）
3．先生からの連絡など
4．マラウイ国歌斉唱
5．太鼓に合わせて行進して教室へ

昼休憩は１時間半（本当は13:30 までだが先生が帰ってこない）。
先生も生徒も家や寮に帰って食事をします。

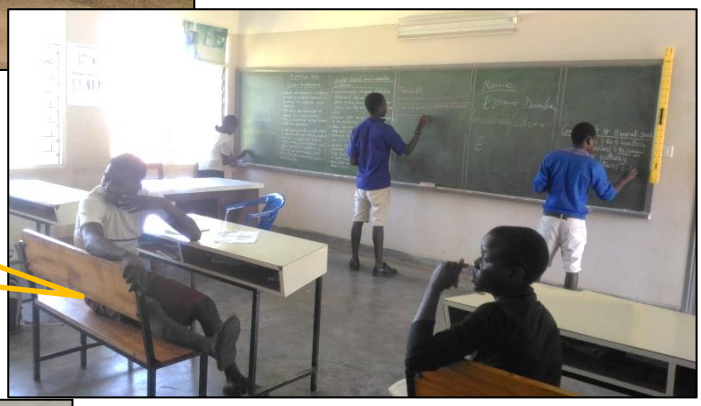
ティータイムと呼ばれる休憩時間。子ども達は寮に、先生達は休憩室でお茶を飲みながら談笑。何茶か分からないお茶に砂糖をスプーン山盛り２～３杯入れて飲みます。幸い紅茶が嫌いな私でも、砂糖の味がメインなので飲めます。

職業訓練コースには、
大工コース
金物屋コース
服飾コース
の３種類があります。
５年生以上の生徒が参加します。

マラウイの学校では宿題はありません。そのため、基本的に放課後～寝るまでの時間はのんびり過ごしている（大きい子）か、全力で遊んでいます（小さい子）。

～　生活・授業風景　その１～

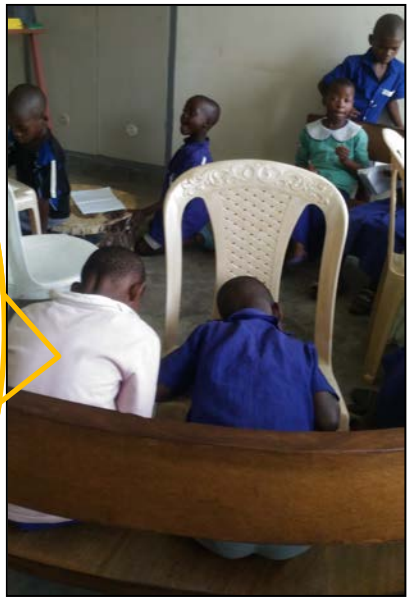
毎朝実施される朝礼の様子。お祈り中です。日本のように朝礼台はないので、後ろの方から先生の顔が見えません…



最高学年（スタンダード８）の自習風景。みんな勉強してる…よね？

同じくスタンダード８の教室（後面）。いろいろな図や表が貼られています。

低学年のクラスは現在校舎を修理中。そのため空き部屋や体育館の入り口で授業。机がないので椅子の上や床でノートを書きます。



～　生活・授業風景　その２～

食事の風景。本人たちの希望でこの写真にしました。
マラウイの主食はシマと呼ばれるトウモロコシの粉をお湯でねったもの。おかずは豆、野菜、小魚、ソヤミートという大豆を肉の触感に近づけた加工品、鶏肉、卵など。
下の写真左が豆の煮物。味付けは塩のみ。右がシマです。この学校ではこの豆の煮物率が非常に高く、生徒に不評。昼食も夕食もこの組み合わせになることが珍しくありません。

職業訓練コースの一つのテーラー科（服飾）。足踏みタイプのミシン（中国産）を使って、主に生徒の破れた服を直す作業が中心。マラウイでは、男性もミシンを使える人が多いです。

我が家の隣の井戸での洗濯風景。低学年の生徒用の寮には洗濯用の水道がないので、週に２回ほどここにきて洗濯をしています。

スタンダード８の女子生徒（５人）。
学校が休みになってからも、卒業試験に向けてこの学年のみ居残り（他学年は実家に帰省）。
年齢も近いこの生徒たちは何でも教えてくれます。年下ですが、私にとってはマラウイのお姉さん状態です。